資料２

保護林における現地確認について

令和５年度のモニタリング調査の結果、葛根田川・玉川源流部森林生態系保護地域および夏瀬ヒバ希少個体群保護林において枯損等が確認されたことをうけ、令和５年度第２回保護林管理委員会において、これらの保護林の現地確認を行うこととしたことからその経過報告を行う。

１　葛根田川・玉川源流部森林生態系保護地域

【Ｒ５　第２回保護林管理委員会より】

被害状況

主要樹種であるオオシラビソの一部の樹木で、気象害（低温）が原因と思われる被害が確認された。

今後の対応方針

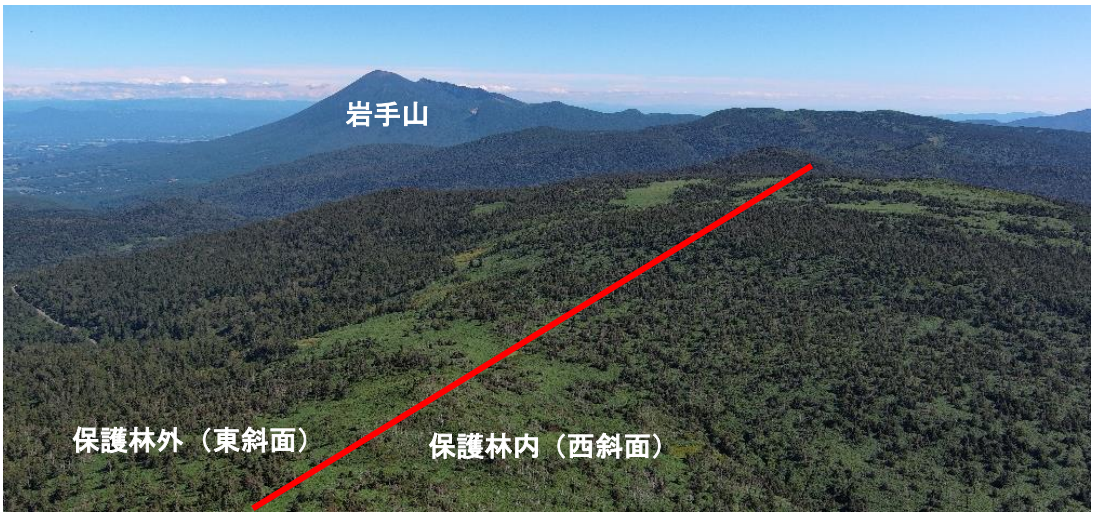
・定期的な巡視の継続
・オオシラビソの生育状況を注視
・10 年後にモニタリングを実施

内容報告

上記の今後の対応方針（オオシラビソの生育状況を注視）を受けて、保護林の保存状況の把握のため、令和６年９月４日に現地調査を行った。

低温害によるものと思われる枯損はあるものの、UAV で撮影した結果（写真参照）、保護林外である写真左側及び八幡平アスピーテライン沿い等の周辺地域と比較して枯損状況に差は見られなかった。また、病虫獣害は確認されなかった。

このことから、今後の対応方針である 10 年後のモニタリングにより立木の生育状況を確認することとしたい。



保護林の遠景（UAV による空撮）　【令和６年９月４日】

２　夏瀬ヒバ希少個体群保護林

【Ｒ５　第２回保護林管理委員会より】

被害状況

保護対象種であるヒバにてんぐ巣病が散見されたと口頭で報告があった。

今後の対応方針

・定期的な巡視の継続

・10 年後にモニタリングを実施

今後の調査予定

令和５年度調査ではてんぐ巣病の被害データが得られていることから、今年度被害の拡大の有無等を把握する予定。